

## 平成26年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

校訓である「自主自律」「和親協力」を背景に、変化の激しい時代に対応できる人材を育成し、生徒・教員がともにチャレンジする学校をめざす

- 1、基礎学力の定着を背景に、広い教養を身につけた上で、健全な議論や思考ができる人材の育成する。
- 2、急速に進むグローバル化に対応する英語教育を根幹とした新しい国際教育を研究・開発・展開する。
- 3、自由な校風と自主自律・和親協力を背景に、学習と部活・行事の両立をはかる。

## 2 中期的目標

## 1. 学力の向上

- (1) 学習習慣の定着を図る。

- ア. 高校生として必要な基礎学力の定着と方法を認識するためのシステムの開発を進める。  
イ. 学年・教科の壁を越えた学校としてのスタンダードを開発し、明確に示す。

※効果検証 学力生活実態調査の結果： 平成25年度…入学時A3以上が約200名→高3のスタート段階が約20名

平成28年度…入学時A3以上が約200名→高3のスタート段階が約100名を維持

- (2) 教員育成のための研修・勉強会を実施し、統計資料を担保とした効果検証を行い、フィードバックを厳しく行う。

- ア. 上記(1)を実現するために、検討された内容を教科横断的な研修・勉強会を通じて、検討・定着を進める。  
イ. 検討された上記(1)について生徒アンケートや模擬試験などの結果から効果検証を行い、フィードバックを行う。

※効果検証 授業満足度について、保護者アンケートにおける「よくあてはまる」を平成25年度17%→平成28年度35%

- (3) 上記を実現するために必要な学校組織の在り方や施設・設備の整備を進める。

- ア. 上記(1)(2)を達成するために、必要な学校組織の再編を進める。  
イ. 特にスクラップアンドビルドを認識し、スマートな組織・業務運営を図り、教員が生徒とかかわれる時間を確保する。

## 2. グローバル時代に対応する教育システムの開発

- (1) TOEFL iBTを中心とした英語教育の改革を行う。

- ア. 「骨太の英語力養成事業」を活用し、新しい英語教育システムを開発する。  
イ. 上記事業を活用し、外部との連携を図り、生徒とともに本校教員も学び続ける。  
ウ. 上記事業を活用し、TOEFL iBTを受け、右の成果を出す。

※効果検証 (1)ウ	TOEFL iBT 80点	TOEFL iBT 60点	TOEFL iBT 40点	受検者数
平成26年度	0名	5名	10名	40名
平成27年度	2名	10名	15名	60名
平成28年度	4名	15名	30名	80名

- (2) 上記(1)の実現に必要なスキルであるロジカル・クリティカルシンキングを理解・実践する。

- ア. スキルを学ぶための思考ツールの開発を行う。  
イ. 開発したツールを使用するための授業方法として、まずは日本語のディベートやプレゼンテーションなどを行う。

- (3) 海外留学生の受け入れ態勢を整備し、海外語学研修や修学旅行などの機会を充実させる。

- ア. 従来よりも多くの留学生が本校に訪訪してもらい、本校生徒との交流の機会を増やすシステムを開発する。  
イ. 海外語学研修や修学旅行については、事前事後の学習を通じて実感を通じた理解を進める。

※効果検証 ア：平成25年度3名→平成28年度30名

## 3. 進路・生徒指導の強化

- (1) 進路実現のために必要なシステムの開発を行う。

- ア. 国公立大学への進学実績を伸ばす。  
イ. 上記2(1)を受け、国内の国際系大学※への進学のシステムを構築する。  
ウ. 上記2(1)を受け、海外大学への進学をめざすシステムを構築する。

※国内の国際系大学…大阪大学外国語学部・早稲田大学国際教養・上智大学・国際教養大学・国際基督教大学などをさす。

※効果検証 ア：平成25年度35名を平成28年度50名にする。 イ：平成25年度4名を平成28年度16名にする。

ウ：平成25年度3名を平成28年16名にする。

- (2) 生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立を進める。

- ア. 基礎的な生活習慣の定着を進める。  
イ. 生徒会を中心とした、自主的な活動を推進する。

※効果検証 ア：年間遅刻者数を平成25年度約6000件を、平成28年度には約1500件まで減らす。

- (3) 地域との連携を意識し、様々な機会を通じて、情報発信と協働を行う。

- ア. 部活動を中心に地域のイベントへの協力などを進める。  
イ. 本校の英語教育の発展のため、そして地域の英語教育の発展のために、人材の相互交流を進める。  
ウ. ホームページや広報素材を充実させ、本校を希望する方々や同窓生の方々への理解を充実させる。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年1月実施分]	学校協議会からの意見
<b>1 保護者アンケートより</b> [全般] (1)子どもは箕面高校へ行くのを楽しみにしている。92% (2)子どもは、自分の学級が楽しいと言っている。85% (3)箕面高校に入学させてよかった。94%	<b>第1回 [平成26年7月12日(土)]</b> ●：委員 ○：事務局 <意見書の提出について> 「制度の周知」 ●意見書提出制度の周知をしっかりとやっていただきたい。また、意見が出やすい雰

<p>(4)箕面高校は、教育方針をわかりやすく伝えている。79%</p> <p>(5)箕面高校を信頼している。90%</p> <p>(6)子どもは箕面高校を信頼している。89%</p> <p>(7)箕面高校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる。88%</p> <p>[学習指導]</p> <p>(8)子どもは、授業が楽しくわかりやすく楽しいと言っている。63%</p> <p>(9)学習の評価については、納得できる。90%</p> <p>(10)学習の内容や進度等を、懇談や通信などによって知ることができる。66%</p> <p>(11)先生は子どもの評価を適切・公平に行っている。92%</p> <p>[生徒指導]</p> <p>(12)箕面高校の生徒指導の方針に共感できる。88%</p> <p>(13)先生は子どもを理解している。84%</p> <p>(14)先生は子どものまちがった行動を正しく指導してくれる。88%</p> <p>(15)箕面高校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。81%</p> <p>(16)箕面高校の生徒指導の方針は、保護者に示されている。78%</p> <p>[進路指導]</p> <p>(17)箕面高校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。82%</p> <p>(18)進路指導面で、学校は家庭への連絡や意思疎通を、きめ細かく行っている。65%</p> <p>(19)先生（担任）は、進路に関して丁寧に指導をしてくれる。80%</p> <p>[教育相談]</p> <p>(20)子どもの心身の健康について、気軽に先生に相談できる。73%</p> <p>[人権]</p> <p>(21)箕面高校は子どもに生命を大切にすると心や社会ルールを守る態度を育てようとしている。80%</p> <p>(22)子どもは、学校に友達がいるといっている。96%</p> <p>[学校行事等]</p> <p>(23)箕面高校の文化祭は活発である。99%</p> <p>(24)箕面高校の体育祭は活発である。99%</p> <p>(25)箕面高校の生徒会活動は活発である。91%</p> <p>(26)箕面高校の部活動は活発である。96%</p> <p>[国際]</p> <p>(27)英語教育が充実している。94%</p> <p>(28)国際交流や異文化理解に関する取り組みが充実している。93%</p> <p>[情報提供]</p> <p>(29)箕面高校は、教育情報について、提供の努力をしている。33%</p> <p>(30)箕面高校のホームページをよく見る。52%</p> <p>[安全教育]</p> <p>(31)地震や火災などの場合、どのような行動をとればいいのか具体的に知らされている。84%</p> <p>[PTA]</p> <p>(32)PTA 学級委員の選出方法は適切である。88%</p> <p>[参画]</p> <p>(33)箕面高校の授業参観や学校行事に参加したことがある。84%</p> <p><b>2 生徒アンケートより</b></p> <p>[全般]</p> <p>(1)箕面高校に行くのが楽しい。88%</p> <p>(2)自分の学級は楽しい。90%</p> <p>(3)箕面高校に入学してよかった。90%</p> <p>(4)先生は、学校教育方針をわかりやすく伝えている。81%</p> <p>(5)箕面高校を信頼している。83%</p> <p>(6)保護者は箕面高校を信頼している。87%</p> <p>(7)箕面高校には、他の学校にない特色がある。93%</p> <p>[学習指導]</p>	<p>雰囲気づくりを継続的に行ってほしい。</p> <p>○すでにアンケートなどをとるなど積極的に意見を吸い上げようとしているが、さらに具体的な対応策を検討し、意見を反映できる体制づくりを意識していく。</p> <p>≪「骨太の英語力養成事業」について≫</p> <p>[校長業務]</p> <p>●日常業務に加え新規事業に取り組むのは難しいのではないかと。</p> <p>○プロジェクトチーム（以下PT）を立ち上げ、池谷首席をPT長に任命し、順次仕事を割り振っている。外部との折衝は今後も私が担当予定していくが、必ずPTの先生方にも同席してもらい、共通認識を構築していく。今後、バランスや手順に無理がないよう行動計画を策定し、様々な要素を勘案しながら、まずは日常の教育活動の充実を重視する。また、新しい教育システムの開発を現場の先生方や保護者の意見を取り入れながら継続的に行っていく。</p> <p>[普通科生徒への対応]</p> <p>●普通科の生徒への対応策は？</p> <p>○上記の事業が国際教養科を中心としているため、少し重点がそちらに集中している。ただ、我々としては普通科へ共有し、学校全体に広げることが重要だと認識している。箕面高校のあるべき教育の姿としては、自主自律・自由の気風を重視し、正解のない成熟社会となった日本において、「21世紀型の課題解決学力」を身に付けていくことが重要だと考えている。それを軸にしつつ、本校に課せられた事業としての「骨太英語」を活用し、その延長上の解の一つとしてTOEFL iBTがあると位置付けていく。英語の授業のみならず、この「学力」については、教科教育に限らず、生徒会活動や部活動など全ての教育活動に展開していく。</p> <p>≪「学校経営計画」について≫</p> <p>[めざすべき学校像]</p> <p>●箕面高校がめざすべき姿や良い点をもう少し整理し前面に出していただきたい。</p> <p>○箕面高校の良い点に関しては、自由の気風と伝統、そして自主自律を促そうとする先生方の姿勢とそれに応える生徒たちの努力、だと思っている。大切なことは、この伝統と気風をベースに「健全な議論ができる国際社会で活躍することができる人材の育成」であると強く認識している。最も重要なことは、「骨太の英語」ではなく、「骨太の人材」を育成し、社会に貢献できるようにすることである。この部分に関しては、我々教員内での認識も整理しきれているわけではない。今後、徐々に学内での認識の共有化を図り、今一度「箕面高校のあるべき姿」を継続的に教職員全員で議論し、構築していく。</p> <p>[教育課程]</p> <p>●教育課程が新しくなったが、理系国公立大学進学に対応しているのか。</p> <p>○対応している。教育課程には不備がないように精査してきている。</p> <p>[遅刻]</p> <p>●遅刻が多い。改善されていない。</p> <p>○朝礼や朝テストの導入等も視野に入れるなど対応策を検討中。また、メロディーチャイムの導入や立ち番の充実など、具体的な改善策も今年度中に入れていく予定である。</p> <p>●生徒からアイデアを募るのも一策。</p> <p>○生徒会などを通じ、ともに改善を図るようにしていきたい。</p> <p>≪その他≫</p> <p>●ホワイトボードを活用するにもプレゼン能力が必要。</p> <p>●大学進学だけでは中学生は魅力を感じない。行事への参加等、学校の「歴史」に参画できることが中学生の学校選択のインセンティブになる。</p> <p>●進学に力を入れだしていることを感じる。</p> <p>●中学生が高校を選ぶ際には学校や先生方が一生懸命かどうかその基準の一つである。ただ、具体的な内容と展望が明示されていないため、今後改善の必要があるのではないかと。</p> <p>○入学時の学力が維持できていないことや、校内業務の処理をマンパワーに頼ってきたことは学校としての課題。今後改善していきたい。</p> <p>○全教職員からのヒアリングに基づき、来年度に向けて校内組織を改編予定している。</p> <p>≪まとめ≫</p> <p>●学校経営のプレゼンが、学校を取り巻く前提条件の説明が一部不足していたこともあり、少し見えにくかった部分があった。説明と質問をする中で見えてくるものがあったが、今後はその部分を整理しておくことが重要である。</p> <p>●今後も良い点を支援していきたい。</p> <p><b>第2回 [平成26年11月22日(土)]</b> ●：委員 ○：事務局</p> <p>≪意見書の提出≫</p> <p>[雰囲気づくり]</p> <p>●気軽に申し出ることのできる雰囲気が大切。今後も雰囲気づくりに努めていただきたい。</p>
---	---

<p>(8)授業はわかりやすく楽しい。73%</p> <p>(9)学習の評価については、納得できる。88%</p> <p>(10)授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。79%</p> <p>(11)評価の仕方や基準について、事前に示されている。88%</p> <p>(12)授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。76%</p> <p>[生徒指導]</p> <p>(13)学校生活についての先生の指導は納得できる。86%</p> <p>(14)箕面高校の先生は、あなたのことをよく理解している。69%</p> <p>(15)箕面高校の先生は、いろいろな問題を見逃さずに対応してくれる。71%</p> <p>(16)箕面高校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。82%</p> <p>(17)先生は生徒の意見を聞いてくれる。83%</p> <p>[生徒指導]</p> <p>(18)将来の進路や生き方について考える機会がある。88%</p> <p>(19)箕面高校は、進路についての情報を知らせてくれる。89%</p> <p>(20)先生（担任）は、進路に関して丁寧な指導をしてくれる。85%</p> <p>[教育相談]</p> <p>(21)担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる。59%</p> <p>(22)悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。70%</p> <p>[人権]</p> <p>(23)命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。74%</p> <p>(24)人権について学ぶ機会がある。77%</p> <p>[学校行事等]</p> <p>(25)文化祭は楽しく行えるよう工夫されている。94%</p> <p>(26)体育祭は楽しく行えるよう工夫されている。95%</p> <p>(27)ホームルーム活動は活発である。80%</p> <p>(28)生徒会活動は活発である。84%</p> <p>(29)部活動は活発である。94%</p> <p>[国際]</p> <p>(30)英語教育が充実している。90%</p> <p>(31)国際交流や異文化理解に関する取り組みが充実している。86%</p> <p>[情報提供]</p> <p>(32)箕面高校のホームページをよく見る。28%</p> <p>[安全教育]</p> <p>(33)箕面高校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか、知らされている。64%</p>	<p>○前回の学校協議会でのご意見を反映し、雰囲気づくりを一つの柱に動いていこうと教職員一同、認識を深めている。</p> <p>◀「TOEFL iBT 特設レッスン」について▶</p> <p>[特設レッスン]</p> <p>●PTAとして、レッスンの第1回を見学した。その時は「何をするのかな？」という戸惑いを感じている風にも見受けられた。今回再度見学して、生徒の取り組む姿勢の変化が感じられた。</p> <p>○生徒の中に良い意味での競争心が芽生えつつある。できる生徒に対する羨望と自分もそのレベルに達したいという欲求が感じられるようになってきた。</p> <p>○国際教養科の1年生80名中45名が受講。希望したが参加できなかった生徒もいる。他教科の教員も見学に来ている。受講生徒全員を教えているが今までにない反応がある。具体的には、授業の受け方の姿勢の改善や家庭学習の定着など、少しずつ変化が見られるようになってきた。</p> <p>●レベルは高いが何が重要となってくるのか。</p> <p>○マインドセットが重要である。特に、単純な英語力を伸ばすだけではなく、日本人に苦手な、しかし国際社会で必要とされるロジカルにものを考えることや即問即答ができるようになることを意識させることが大切だと認識している。</p> <p>●受験講座的な面も感じられるがどうか。</p> <p>○見学したのが第2限だったのでそのような感もあるが、第1限はアイスブレイクのためにゲーム感覚で行うものを取り入れている。Berlitzを受講している一般的な企業・社会人のリクエストはTOEFL対策（得点力UP）だが、本校ではTOEFL対策にのみ縛られるのではなく、英語の4技能を総合的に伸ばすとともに、論理的にものを考え、具体的な解決策などを模索する骨太の人材を育成するように講師と打ち合わせを重ねながら取り組んでいる。</p> <p>●現場の「声」が反映されている様子が伺えた。英語の4技能が向上すればと思う。</p> <p>●めざすべき方向性は間違っていないと思う。</p> <p>[波及効果]</p> <p>○ネイティブの講師のレッスンを本校のNETが見学し、刺激を受けたようだ。以後、自身の授業でも特設レッスンの一部を取り入れるなどしている。</p> <p>[普通科生徒への対応]</p> <p>●普通科の生徒への拡大は考えているのか？</p> <p>○骨太の英語力養成事業が限定された生徒に対して財政保障されているが、レッスンをサポートしている教員がTOEFL iBTのみならず英語4技能の指導のノウハウを吸収し、普通科の授業にも適用していくことで、全ての生徒が一定の恩恵を受けられるように考えている。</p> <p>[GLC]</p> <p>○特設レッスンは1年生の国際教養科から選抜された45名対象だが、e-LearningであるGLC（Global Learning Center）は国際教養科の2年生全員が先行して受講中である。</p> <p>●自宅学習は可能か？</p> <p>○ネットワークにつながったPC環境が自宅にあれば学習は可能である。本校生徒の大半はスマートフォンを所有しているが現状では非対応。業者が対応も考えているようだ。</p> <p>●自宅にPCの無い生徒への対応策は？</p> <p>○図書館のPCの利用が可能であり、随時対応する。</p> <p>◀「平成26年度学校経営計画」の進捗状況について▶</p> <p>○平成27年1月実施予定の学校教育自己診断等の数値が「評価指標」になっている関係上、現時点での評価が困難な側面がある。</p> <p>◀学校説明会について▶</p> <p>●参加者数の変化は？</p> <p>○周辺他校において説明会の開催日が同じ学校があったため、参加生徒数は昨年より減少した。但し、保護者数は昨年より増加した。</p> <p>●参加地域は？</p> <p>○大半が、豊中市、箕面市、池田市。吹田市や大阪市内からの参加者数は昨年並みであった。</p> <p>◀HPについて▶</p> <p>○中学生は部活動の、保護者は説明会の日程や教育内容を、閲覧しているようである。HPは重要な広報ツールであるが、一度にすべてのバージョンアップはできないため、徐々に今後も改良する予定。</p> <p>●facebookやtwitterも活用しているのか？</p> <p>○コンプライアンスの観点から現状での活用は難しい。また、リスク管理の側面からも慎重に展開していきたい。校長が前面に出てしまう校長ブログより、今以上に生徒や先生の活躍が前面に出るHPにしていきたい。</p> <p>◀今後の方向性▶</p> <p>●箕面高校の良さを継承しつつ改革に取り組み、情報発信していただきたい。このまま頑張っていたいただきたい。</p>
--	--

## 第3回 [平成 27 年 2 月 14 日 (土)] ● : 委員 ○ : 事務局

≪「TOEFL iBT 特設レッスン」について≫

[特設レッスン]

- 前回よりレッスンの雰囲気に変化が見られる。
- 次にどう繋がるかが大切。TOEFL iBT のスコアを上げることが目的ではない。次のステップとして何か策があるのか。
- 2 年生で GLC (Global Learning Center) を実施予定。今年度も 30 分間の英会話を海外に繋いで 3 回実施。また、短期留学のプログラムを変える。MIT やスタンフォード大学のプログラムに参加し実際に英語を活用する状況を提供したい。最終的には大学に繋げたい。
- 修学旅行との連携はあるのか。
- 予算の都合上、修学旅行先は国内に変更する。その代替案として短期留学を充実していく。例年実施している模試の英語のデータも上がった。また英語だけでなく国語数学も上がった。何よりも生徒が問題に取り組んでもあきらめなくなっている
- 数学でもテストに対し最後まで取り組んでいる。
- 学校にも良い形で還元されている。
- 成績上位の生徒が学習面において全体を引き上げる雰囲気が大切。特設レッスンが契機となれば良いことだと思う。次年度の予定はどうか。
- 府の予算は単年度会計。現時点では確定的なことは言えない。ただ SET (Super English Teacher) は配置される予定。
- 次年度だけでは心配。長期のビジョンが必要。
- 「骨太の英語力養成事業」が終了したときのことを常に念頭に置いている。
- すべての生徒対象が条件とはなるが私費 (PTA 予算等) の活用も検討に値する。
- 継続性が大切。私費の活用も視野に特設レッスンのような事業を継続していただきたい。

≪「平成 26 年度学校経営計画及び学校評価 (案)」について≫

- 学校教育自己診断等の数値は他校ではどの程度か。
- 箕面高校は相対的に数値が高い。
- 担任で事足りている感じがする。一方、組織的な取組の弱さを感じる。
- 教員の年齢構成もある。本校でも 50 代以上が 50% を超えている。また、職員室が教科別構成になっている。学年構成の職員室への変更も視野に入れている。教員がチームになることが大切。
- 生徒からの相談メールの受け付けはしているのか。
- メールでの受け付けは無いが、SC や教育相談担当教員に相談できる体制は整備してある。そもそも箕面高校の生徒は担任以外の教員に相談することはあまりないのではないかと思われる。
- 「安全教育」の項目で、数値が低いのではないか。
- 前任校でもこの程度。他の数値が高いので目立ってしまう。

≪「平成 27 年度学校経営計画及び学校評価 (案)」について≫

[遅刻]

- 最終目標を決めることが大切。
- 遅刻は自覚が大切。
- 特定の生徒か。
- そのとおり。雨の日は自転車通学者がバスを利用するため遅刻が増える。1・2 年は減少傾向。3 年が増えている。
- 「雨の日の遅刻」と「晴れの日の遅刻」では意味が違う。「晴れの日の遅刻」は遅刻常習者。常習者指導が大切。このようなことが数値化されればと思う。常習者指導と「雨の日 (特定)」遅刻者では指導を分けるべきだ。
- 保護者が子供のことを見ているかが大切。
- 遅刻は家庭の責任。「晴れの日 (常習) 遅刻」対策が大切。
- 本人に「遅刻は悪い」と思わせることが大切。

[国際科 (グローバル科) への改編]

- 国際教養科から国際科になぜ変わるのか。
- 全校的に見て国際教養科は減少傾向にある。また、府としても国際教養科の実績は上がっていない。本校としては従来からの課題である理系選択が可能になる。本校の改編が府のモデルケースになればと思う。本校としては「21 世紀型学力」の育成に実験的に取り組みたい。
- スケジュールは。
- 平成 28 年度入学生徒 (現中学 2 年生) から。
- 何か先駆的な取組は実施しているのか。
- まだ、教育課程は生徒が入学時に 3 年分を提示。途中で変更することはできない。
- 現在の国際教養科では理系のセンター試験対策ができない。理科の基礎 3 科目履修がポイント。
- 国際科の定員は。
- 現在と同じ 80 名の予定。「まわし合格」が可能になる。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学力の向上	<p>(1) 学習スタンダードを作るための基盤整備</p> <p>(2) 教員育成のための研修・勉強会の立ち上げと整備</p> <p>(3) 学校組織の整備</p>	<p>(1) 学習スタンダードを整備するための素材集めを始める。</p> <p>(2) 上記(1)を遂行するために、新採者育成を含めた教員育成勉強会を5月より首席を核に、教科横断的に毎週1回の頻度で実施する。 また、授業アンケート(7、12月)の課題把握と成果検証を明確に行い、フィードバックを明確にする。</p> <p>(3) 教員育成勉強会とともに、「骨太英語プロジェクト」の遂行に向けて、学校組織における分掌・委員会を整備し、人事計画については中長期の視点に立った人材配置を行う。</p>	<p>(1) 本年度中にスタンダードの骨子の完成をめざす。</p> <p>(2) 以下の内容の完成と遂行をめざす。 ・勉強会方針の完成 ・新採者人材育成ルートマップの完成 ・授業アンケートの改善、各教員授業満足度を5%改善とともに、保護者アンケートにおける「よくあてはまる」17%→25%</p> <p>(3) 本校の組織表の再編とともに学校教育自己診断における校長のリーダーシップに関する質問で肯定率41%→75%以上、意見反映に関する質問で肯定率40%→60%</p>	<p>(1) 骨子作成に至らず(△)</p> <p>(2) ・勉強会方針不作成(△) ・勉強会実施(2回)(○) ・ルートマップ不作成(△) ・授業アンケート2回実施(7月、1月) ・学校教育自己診断(1月実施) ・「よくあてはまる 18.8%」(△)</p> <p>(3) 校内組織改編に向けて取組中(○) ・学校教育自己診断(△) 学校教育自己診断の項目の再検討により「校長のリーダーシップ」関係の質問を実施せず</p>
グローバル時代に対応する教育システムの開発	<p>(1) TOEFL iBTを中心とした英語教育の改革を行う。</p> <p>(2) 上記(1)の実現に必要なスキルであるロジカル・クリティカル・シンキングを理解・実践する。</p> <p>(3) 海外留学しへの受入態勢を整備し、海外語学研修や修学旅行の機会を充実させる。</p>	<p>(1) 国際教養室を中心に、TOEFL iBT プロジェクトチームを発足し、現状分析と課題の把握、今後の方向性と課題解決策の策定作業に取り組む。 また、「骨太英語プロジェクト」に関して、先行実施として、特設レッスンやiBT模試などを受験させ、成果検証を実施する。</p> <p>(2) 具体的な思考ツールの開発については、他校や企業などで使われているノウハウを吸収・研究し、本校にあったカリキュラムを構築する。</p> <p>(3) 「海外留学生受入方針」を明確に整備し、具体的な教育目標と数値目標を設定する。 また、海外語学研修については、内容を再検討し、「骨太プロジェクト」との連動を整備する。</p>	<p>(1) 以下の内容の完成と遂行をめざす。 ・TOEFLiBTのスコアについて 平成26年度 Score60↑…5名 Score40↑…10名 ・骨太英語について「箕面メソッド」の骨子の完成</p> <p>(2) 上記(1)の2つめの内容と重複する。</p> <p>(3) 以下の内容の完成と遂行をめざす。 ・「海外留学生受入方針」の完成 ・留学生の受入数 平成25年3名 平成26年5名 ・海外語学研修の内容検討と整備</p>	<p>(1) ・TOEFLiBT チャレンジ(○) 一回目45名受験(12月) Score60↑…2名 Score40↑…9名 二回目45名受験(3月) Score60↑…3名 Score40↑…12名</p> <p>・「箕面メソッド」骨子未完成(△)</p> <p>(2) GLC活用 23回×2クラス授業実施(◎)</p> <p>(3) ・「海外留学生受入方針」作成(○) ・留学生受入数3名(○) ・H27年度海外語学研修説明会実施[2/14](◎)</p>
進路・生徒指導の強化	<p>(1) 進路実現のために必要なシステムの開発を行う。</p> <p>(2) 生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立を進める。</p> <p>(3) 地域との連携を意識し、様々な機会を通じて、情報発信と協働を行う。</p>	<p>(1) 学年・教科での認識の差をできるだけ少なくするために、進路指導室を中心に定期的な研修などを行う。</p> <p>(2) 生徒会を中心とし、今まで構築してきた生徒主体の部活動・行事運営に関して、より発展的でシステム化されたものを検討していく。</p> <p>(3) 国際教養室や骨太英語、部活動などを通じ、地域との連携を整備、強化していく。特にホームページに関しては、広報推進委員会(仮称)を立ち上げ、組織的な情報発信を行う。 また、校内・校外美化の継続的な実施と地域との連携を進めていく。</p>	<p>(1) 以下の内容の完成と遂行をめざす。 ・国公立大学合格者平成25年度35名→40名 ・国内の国際系大学 平成25年度4名→8名 ・海外大学への進学 平成25年度3名→5名</p> <p>(2) 以下の内容の完成と遂行をめざす。 ・箕面高校進路指導システムの構築と徹底。遅刻者数6000名→4000名。 ・生徒会・行事における基本方針の作成</p> <p>(3) 以下の内容の完成と遂行をめざす。 ・広報推進委員会の立ち上げ ・ホームページのアクセス数を増やす。(参考：府立他校のアクセス数約200件/1日程度→約400件) ・学校教育自己診断の保護者アンケートにおけるホームページ閲覧に関する質問での肯定率28%→50%</p>	<p>(1) ・国公立大学進学希望者(◎) 合格者60名 ・国際系大学進学希望者(△) 進学者1名 ・海外大学進学希望者 希望者4名→3名</p> <p>(2) ・遅刻者数 5981名(H25.11)→6062名(△) ・基本方針作成中(△)</p> <p>(3) ・広報推進委員会設置(○) ・ホームページアクセス数 (7/25~3/26,247日) 76,498回(310回/日)(△) ・学校教育自己診断 保護者肯定感 51.6%(○)</p>